

指標名: 中小企業の業況(2006年5月)

発表日2006年5月31日(水)

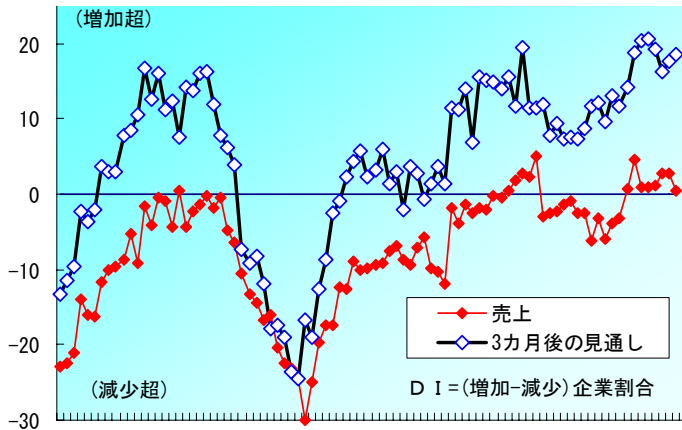
～業況は改善傾向にあり、販売価格DIも「上昇」超に～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

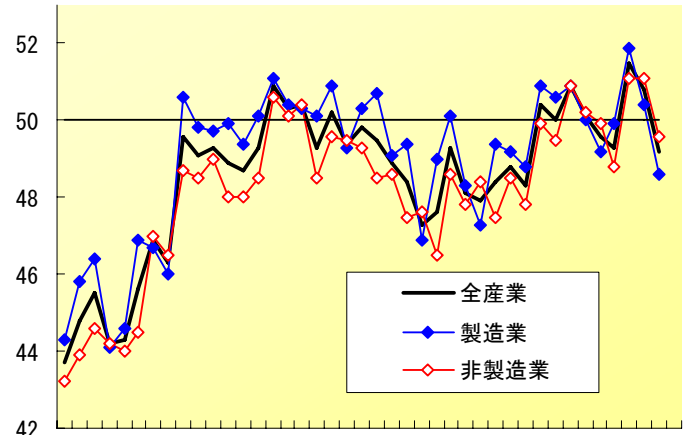
TEL : 03-5221-4525

中小企業 売上DI (季調値)



(出所: 中小企業景況調査、中小企業金融公庫)

景況判断指数 (中小企業月次景況観測)



出所: 商工中金

○ 中小企業の業況は緩やかながらも改善傾向

中小企業金融公庫から本日公表された「中小企業景況調査」では、5月の売上DIは0.5と前月から2.2ポイント低下したものの、増加と減少の分岐点であるゼロを8ヵ月連続で上回った。売上見通しDIは1.0ポイント上昇し、高水準での推移が続いている。

また、商工中金から公表された「中小企業月次景況観測」では、5月の景況判断指数(1000社調査)は49.2(4月50.8)と低下した。こちらは「好転」「悪化」の分岐点となる50を3ヵ月ぶりに下回った。ただし、6月は50.5と好転することが見込まれている。売上高は前年比+2.7%(前月同+4.0%)と35ヵ月連続で増加し、5月は同+4.1%、6月は同+3.9%が見込まれている。

中小企業の業況は前月から小幅悪化したが、先行きについては業況や売上見通しの改善が見込まれていることを勘案すると、5月の悪化は一時的であり、中小企業の業況は緩やかな改善傾向が持続していると判断する。

○ 販売価格DIは上昇傾向に

商工中金の「中小企業月次景況観測」では、5月の販売価格DIが+0.9(前月▲0.5)と「下落」超から「上昇」超へと転じた。2000年6月以降の1,000社ベースの調査では最も高い水準となっていることに加え、6月予測は+2.6とさらに上昇する見込みである。仕入価格DIも5月は+19.9(前月+14.7)と過去最大の「上昇」超幅となっていることから、採算面を考えると厳しい状況に変わりないものの、仕入価格の上昇を販売価格に価格転嫁できる企業が徐々に増えてきていることが示唆される。

また、このことは中小企業金融公庫の「中小企業景況調査」からも確認できる。5月の販売価格DIは+3.7と前月から1.0ポイント上昇し、4ヵ月連続のプラスとなった。景気の回復が続いていることによって、中小企業においてもデフレ脱却の機運が高まりつつあると考えられる。

